

幼稚園出身者の成績に就いて（承前）

和田 實

前號に於ても述べた通り現在に於て幼稚園の出身者は果して通常の家庭よりの直接小學者に比して優良なり否やと云ふとは不明の問題で唯見渡し所大體に於て多少幼稚園出身者が優等の位置にある様であると云ふに過ぎぬ。唯地方よりの時々の報告は常に優等なる成績を得て居る丈である。そこで吾人は自ら進んで此調査を遣つて見たと思つて過る。四十年頃から數度之を行つて見た。併し何時も調査後になつては其調査の方法上に誤謬の點を發見して折角の調査を水泡に歸して仕舞ふことが多かつた。一度は幼兒の出身別が充分に區分されなかつたこともあり一度は各幼兒の得點平均を算出して之を比較したりなどした故に前のは全々誤謬のものとなり、後のは其結果が曖昧で充分な結果を示さなかつた。尤も前號にも掲

げた通り神方の長狹小學校に於ける調査は同様な調査法であつて、然も幼稚園出身児の成績が非常によいと言ふことであるが不幸にして吾人の調査する所では同調査法に因りたる結果は何時も五分五位の勝負となつて其結果は不明である。そして若し兩出身者の數が不平均であるときは、いつも人數の多い方が得點平均少く負ることになつて居る。是は此調査法當然の結果で、止むを得ないものである。故に若し此調査を正確ならしめ様と云ふのには根本に於て兩者の人員數を等數に限る必要がある。併し、其數を等しく限るとしても、若し兩者の何れかに天性特異なるものがあつたならば調査の結果は亦も非常な狂ひが出るに極つて居る。是は前號に説明した通りである。因つて此調査法は人員に於て兩者を等しくし然も兩者の各幼兒は天性に於て大體同等の状態にあるものを探らなければならぬ。併しこんなことは到底實際に於て行ひ得可きことでない、従つて此方法は適當な調査法と云ふことにはならぬ。そこで吾人は更に別法を取ることにした。それは即ち前號

に於て吾人が尤も適當なる調査法として述べた所のものである。

此調査法を施行した所の材料となつたのは東京女子高等附屬小學校第一部第一學年間の第一學期の成績で、明治三十三年から本年に至る十ヶ年間の成績表に因つて調べたものである。從來の此種の調査が主として高學年又は卒業の際に於けるものと謂ふて、向うのに反して吾人は殊更に初年級を選んだ譯では、兩出身者の區別は小學校入學の初めに於てこそ其教育の差異著しかる可きも學年の漸次

幼兒教育上ニ於ケル成績比較表

附屬幼稚園、他公私立幼稚園及ヒ直接家庭出身者ノ

年度	別	出身別	總人員	成績優等ナル		同上百分比	成績中等ナル	同上百分比	成績劣等ナル	同上百分比	成績順
				モ	ノ						
三十六年四月	入學セルモノノ家他附	庭屬	一一二	一	一	二〇	一一七	二	一	一	一
三十五年四月	入學セルモノノ家他附	庭屬	六七六	六	七	一七〇	一一六	一	一	一	一
三十四年四月	入學セルモノノ家他附	庭屬	一一七	一	一	一七〇	一一六	一	一	一	一
三十三年四月	入學セルモノノ家他附	庭屬	一一七	一	一	一七〇	一一六	一	一	一	一
五四四	一一〇三	五一六	一一二	一	一	一一二	一一二	一	一	一	一
三三一	一一一	一一三	一一六	二	八〇	二八〇	二九〇	二	八〇	二九〇	二九〇
三三五	一一一	一一五	一一六	二	九〇	二九〇	二九〇	二	九〇	二九〇	二九〇
三三〇	一一〇〇	二二五	二二五	二	九〇	二九〇	二九〇	二	九〇	二九〇	二九〇
三三〇	一一〇〇	五九〇	五九〇	一	九〇	一九〇	一九〇	一	九〇	一九〇	一九〇
一〇八八	一一八四七	九五八	一一〇四八	一	〇四八	一〇四八	一〇四八	一	〇四八	一〇四八	一〇四八
六六五	一一八〇五	五七五	九五四〇	九	五〇七〇	九五四〇	九五四〇	九	五〇七〇	九五四〇	九五四〇
六六〇	一一八〇〇	六一〇	一〇一四〇	一〇	一〇一四〇	一〇一四〇	一〇一四〇	一〇	一〇一四〇	一〇一四〇	一〇一四〇
六六〇	一一九〇〇	二四〇	一〇一四〇	一〇	一〇一四〇	一〇一四〇	一〇一四〇	一〇	一〇一四〇	一〇一四〇	一〇一四〇
七七〇	一一五七五	五三〇	一一五三〇	一一	五三〇	一一五三〇	一一五三〇	一一	五三〇	一一五三〇	一一五三〇
〇〇四	〇〇〇	二一二	〇一〇	〇	一〇	〇一〇	〇一〇	〇	一〇	〇一〇	〇一〇
三	二五〇	一一二	一四二	一	四二	一四二	一四二	一	四二	一四二	一四二
〇〇〇	〇〇〇	二三一	二三一	二	三一	二三一	二三一	二	三一	二三一	二三一
一一二	一一二	二三一	二三一	三	二一	三二一	三二一	三	二一	三二一	三二一

進むに連れて其差異を少くし遂には平均せしめるゝに至ることは現在の小學校編成上當然の結果なれば、今兩者の差異を小學校高學年の成績に於て見んとするは少しく無理なものと云はねばならぬからである。即ち兩出身者の差異は小學校入學の當初に於てこそ調査す可き最好時機である。因つて吾人は殊に初學年を探り然も第一學期間の成績を材料として調査した次第である。次第である。即ち其結果である。

右の表の中、明治卅六年同三十九年及び本年の三ケ年は、如何も其年が何れも二年間を距て、不成功績を現して居る。是は何か原因があるので、はなからうかと思つて調査したけれども別に是と認む可き理由を見出し兼ねて居るが、併し兎に角此表に因つて居る。是の年は、如何も附屬幼稚園の成績は左迄善からず、其年が何れも二年間を距て、不成功績を現して居る。是は何か原因があるので、はなからうかと思つて調査したけれども別に是と認む可き理由を見出しあらざる。是の年は、如何も附屬幼稚園出身者の成績は決して不良ではないと云ふことが出来る。

此表を見たところの某教育家は曰く
『全體幼稚園出身児と直接家庭出身児との學校に於ける成績を比較するなんて、實に馬鹿げたことを爲るではないか、家庭の主宰者は教育者ではないではないか、而も多くの家庭は無學文子供と専門の幼兒教育者たる保母の養成せるものとを比較しやうなんて、實に馬鹿げて居るでは、

合計	家他附	家他附	家他附	家他附	家他附	家他附	家他附	家他附	家他附	家他附	家他附
一一九三八七〇五	一一八八七	一九四〇五	一八九	一一八六〇	一一八五〇	一一八九七					
二三七五六一六	六五〇	〇三五	一四二	三五五	二四二	一三七					
二二四五、五七九、七九〇八五八	七二五、〇七八二	二二五、四〇三	五六六〇三、一〇七〇六	三三二七一五、五二〇〇五〇	二二六五六〇、〇六〇〇七〇	一一四二五一、五七一〇九七					
六九〇四三一	一二三七	八〇五	一四四七	三九五	五一八	一五八					
六七五五四、五六〇六四	二七四一、〇二八	八七五八一、〇八三〇	九五三三〇六、三〇八三〇四	三五七七六五、五二〇〇五〇	六七三四、〇三〇〇三〇	六九四二三七、一〇六六					
八六八	〇〇〦	一一〇	〇〦〦	二二〇	一〇〇	二一二					
七四四、二六三、七二二	一〇〇	一四〇	〇〇〇	二五、五〇〇〇	一二、五〇〇〇	一一、五〇〇〇					
三二一	一三二	三二一	三二一	三一三	三二一	三二一					

ないか、そりや家庭の主婦にも時には立派な婦人がないで、もなからう。併し然様な婦人は百人かの家庭に何軒あるか、多くは是れ平凡憐む可計の何のと實に大人げないことはないか』と、誠にハヤ一言もない道理で此様な判つた人に遇つては實に本調査は詰らぬものである。けれども世間は廣いもので一方に善いと言ふものがあれば理が非でも殊更に悪くして見たいと云ふ、つまり曲つた人もある。元來、幼稚園出身兒の成績を疑つたのは誰であるかと云へば素人ではなくて實は教育者である。現在に於ても幼稚園の教育に同情を表せざるものは一部固陋の醫者か、或は教育者の一部で却つて何事も知らぬ素人は益々切に幼稚園の必要を感じつゝあるものである。

も知れぬ「成程入學の當初こそ成績は善からう併し、漸次進むに連れて其成績は何うなるかわらぬ。果して最高學年まで至る迄も其成績が繼續するのでなければ感心は出來ぬ」と併し、是は所謂屁理窟と云ふものである。恰も小學校入學の際に體格検査を行ふに對して、此子の健康は信じられる。後來高學年に至る迄も健康で居るのでなければ眞の健康ではない。と云ふのに能く似て居る。現在の健康は何處迄も現在の健康は信じられぬ。後來高學年に至る迄も健康で居るのでなければ、眞の健康ではない。と云ふのに能く似て居る。併し此の健康が如何様に變化す可きかは一に今後の養育如何に因るものである。然も其が如何様に變化したかは行かぬ。又現在の健康が後來の不健康の原因でありますと云ふ譯には行かぬ。之と同理に因つて現在小學校に於ける成績が幼稚園出身兒の側に於て勝つて居るとしたからとて何も之を咒ふ必要はない譯である。現に善いものは善いとしなければならぬ。後來如何様に變化す可きかは一に小學校に於ける教育の如何に因るので之を善くするも悪くするも一に小學校の責任と云はなければならぬ。